

瑞穂ケーブルテレビ株式会社
2024年度 第17回番組審議会 議事録

日時：2024年12月11日（水）17：30～18：30

会場：たかはしや（箱根ヶ崎140）

【出席者】

番組審議委員 5名（敬称略）

細渕浩昌（委員長）

関谷 忠

榎本和己

川鍋悦子

水村探太郎

放送事業者側出席者 12名

荻野喜美雄（取締役会長）

楠見 裕（代表取締役）

奥田貴哉（取締役）

鹿倉貞二（取締役）

佐藤敏光（取締役）

石井明美（監査役）

森田一法（制作課長）

瀬崎一哉（制作係長）

福田直美（制作課）

井上詩歩（制作課）

鹿島美保（制作課）

加幡祐貴（入間局総務課）

【次第】

1. 開会の挨拶
2. 社長挨拶
3. 委員長挨拶
4. 審議事項
 - 1) コミュニティチャンネルの新しい取り組み
 - 2) 意見交換（1の審議事項について）
5. その他
 - 1) グループ会社の現状について

6. 閉会の挨拶

2. 瑞穂ケーブルテレビ社長挨拶（楠見社長）

瑞穂ケーブルテレビは社内体制が大きく変化しましたが、本年も瑞穂町の皆様に必要な情報を提供すべく一生懸命努力してきました。

例年はみずほテレビの番組を一つずつ説明し、審議委員の皆様から総合的に意見を頂戴していましたが、今回は昨年・今年にスタートした新しい番組、「私たちの未来日記」「なるほど！ザ・みずほ」にスポットを当てた審議会にしたいと考えております。審議委員の皆様から、番組に対して忌憚のないご意見を頂戴し、それを社員の力に変えていければと思います。今後も皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

3. 番組審議委員長（細淵委員長）

一年間を通してみずほテレビがどんな放送をしているかを振り返り、審議委員の皆様から忌憚のない意見を述べてもらい、今後の瑞穂ケーブルテレビの発展に繋がれたらと思います。

4. 審議事項「コミュニティチャンネルの新しい取り組み」森田社員

- 接続世帯数： 4,366 世帯 （加入率 30,0%）
加入可能世帯数：14,512 世帯 2024 年 10 月末現在
- 年間取材本数： 948 本（12 月～11 月） （前年同期 976 本）

「コミュニティチャンネルの新しい取り組み」を事業者が説明した。

コミュニティ番組について総括した。テーマは「コミュニティチャンネルの主役は町民」

- ・コロナの終息により社会情勢は日常を取り戻した。「一人でも多くの町民を画面に出す」「今までコミュニティチャンネルに出ていない人を画面に出す」を目標に番組制作をしてきた。
- ・田中前局長の退職による戦力ダウンを社員の奮起によりカバーしてきた。高校生・中学生にスポットを当てた「私たちの未来日記」と郷土資料館けやき館との共同番組「なるほど！ザ・みずほ」をスタートさせ、顧客満足度の向上に少なからず貢献してきた。
- ・他局からのヘルプを得て「駅伝競走大会」と「三地区夏祭」の生中継を今年も実施。
- ・毎年4局合同で開催している少年野球大会「スマイルカップ」を、今年は11月24日に瑞穂町営グラウンドで実施し、成功裏に終わることができた。
- ・「私たちの未来日記」「なるほど！ザ・みずほ」のVTRを視聴しながら説明

* 「私たちの未来日記」

- 1) 将来性がある若者たちが頑張っている姿を見て視聴者に元気を与える
- 2) 将来的に何か成功した生徒のアーカイブとしても価値がある
- 3) 特に瑞穂中学校は全員が町民であるので町民にも関心度が高いと考える
- 4) 中学生のNGシーンなども入れて親しみを演出

* 「なるほど！ザ・みずほ」

- 1) 郷土資料館学芸員と共に番組を制作⇒郷土愛とシビックプライドの醸成
- 2) 専門性が強いと視聴者離れにつながる為「ユーモラスに」を重視
- 3) 学芸員に親しみを持ってもらう演出により郷土資料館の来館者増にも繋げる
- 4) 不変的なアーカイブとして町の映像資料としても将来的に活用できる

意見交換 （議事進行／細渕委員長）

委員：若者向けの音楽使用には好感が持てるし、若者が出演している番組からは元気がもらえる。学校関係の頑張っている姿を映すことはとても良いと思う。なにより表情が自然で見ていて微笑ましい。

事業者：活動の時間が平日の日中がメインである高齢者を取材対象にしがちだが、それだけでは年齢層に偏りが生まれるので、幅広い年齢層の番組出演を心がけている。瑞穂中学校からの協力も大きい。ありがたいことに、みずほテレビが町内に浸透しているので、自然な表情が引き出せるのではと考えている。

委員：「私たちの未来日記」は農芸高校よりも瑞穂中学校の方が知っている子が出てくるのでより親近感と好印象をおぼえる。また自分も通っていた学校なので、当時からの変化なども映像から見て取れておもしろい。今後は部活動だけでなく授業風景や小学校にも対象を広げたらどうか。

事業者：学校は肖像権の問題で少し閉鎖的な側面がある。瑞穂中学校は部活動にスポットを当てたので、肖像権に問題がある子の対応ができたのではと考えている。小学校に関してもそういった制約を設けて打診することはできると思う。ただ肖像権の問題は児童・生徒の状況や学校の判断に依存されるので、できる範囲での対応となる。小学校のクラブ活動はできたら嬉しいと考えている。

委員：スタッフの入れ替わりがあり名前を覚えるのが大変だが、人が入れ替わることで新しい企画が生まれているのは評価できる。今年の新年特番の「落語」は家庭に笑いを届けていた。昨年の「青少年の主張意見発表会」の編集は素晴らしかったので今年も期待したい。

事業者：スタッフの入れ替わりで新しい企画が出てくるのは事実。スタッフの知名度の問題は積極的な番組出演でクリアしていきたい。実際名前を覚えてもらうことで取材がしやすくなるのも事実。編集に関しては担当者に対応させる。

委員：郷土史については、高齢者が既に知っている事も子どもたちにとっては初めての知識となるので、繰り返し情報を放送していく必要があると考えている。

事業者：「なるほど！ザ・みずほ」は不変的なアーカイブという側面もあるので、映像的な資料としての活用も期待できると思う。

委員：広報番組でも肖像権の問題はある。そういった制約の中でこういった番組を制作できるのは評価できる。子どもの頃に自分がテレビに出るのは特別なことだと思う。家族も自分の子をテレビで見ることができると嬉しいはずなので、続けてほしいと思う。

委員：肖像権の問題は番組作りをするうえでかなりネックになっている事は認識している。番組作りを工夫する必要があると感じる。

事業者：コミュニティチャンネルは勿論のことだが、SNSの活用時にさらに注意を払う必要があると感じている。また、肖像権の配慮に関してはグループとしても検討していく必要があると感じる。

委員：社員が少ない人数で多くのイベントを取材し放送している姿に感心している。

事業者：まだ行ききれていないという認識もある。また、同じところを毎回取材することでマンネリ化してしまうことも事実。新しい取材対象を探し、「今までコミュニティチャンネルに出ていない人を画面に出す」を実践していきたい。

委員：あるコンサート番組の音の送出力が大きすぎて不快感を覚えた。

事業者：編集作業の際に音のレベルを調整し再発しないよう善処する。

委員：加入者をもう少し増やしてみずほテレビの視聴者を増やす必要がある。

事業者：営業活動を強化し新規獲得を増やしていきたい。

委員：役場の職員紹介などもおもしろいのでは。

事業者：広報番組は職員に親しみを持ってもらおうという側面もあると認識している。

委員：広報番組は「カスタマーハラスメント」回避で名前の表記をしなくなった。最近の社会的な流れで難しい部分もある。

事業者：皆様の貴重なご意見を参考に更なる高みを目指してまいります。

5. その他「グループ会社の現状について」 荻野会長

・グループ会社（ケーブルテレビ4社・FMラジオ1社・農業1社）

* 中間決算ですべて黒字

財産である社員の貢献によるもの

今後も人材に投資する経営を続けていく

以上